# 特別支援学級（知的）「お店屋さんの仕事を体験しよう」

育成を目指す資質・能力　【課題発見・解決力】

《本時における学ぶ意欲が高まった児童の具体的な姿》

〇各自が具体的な操作を通じて自分なりの方法でビー玉を４等分する過程で，一人分の数に気付いたり，総数から一人分の数を計算したりすれば均等に分けられることに気付き，等しく分け合えた達成感を味わい，違った数量のものでも等分してみたいという意欲につなげている。

自分なりの方法での解決

実生活や他教科への広がり

## 授業のながれ（全３時間　第２時）

〇つかむ・見通す

お菓子を４人に１個ずつ配ることにより同じ数ずつ分けた経験を振り返った後，本時の学習課題を動画で提示し，本時が１個ずつ配れないことを意識させた。

【学習課題を動画でつかむ児童】

〇学習課題

**ビー玉を４人に同じ数ずつわけよう。**

〇考える・学び合う

ざるに入れた 28 個のビー玉を４つの同じ容器にお玉で注ぎ分ける活動をし，自分の考えた方法で均等になる分け方を見せ合い，意見を出し合った。

【ビー玉を注ぎ分ける児童】

【卵パックを使ってビー玉の総数を数える児童】

〇まとめ

総数が分かっていると一人分が計算でき，上手に均等に注ぎ分けられることを自分の言葉でまとめさせ，もう一度７個ずつになるようにビー玉を注ぎ分ける活動をした。

**全部の数が分かったら，わり算で一人分を計算できる。**

お玉の上で７個が見た目でわかることを知り，全員で試してみた。

**一人何個かが分かったら，おたまで数えて分けられる。**

〇つなげる・振り返り

ビー玉を大量のおはじきに置き換え，四つの容器に均等に注ぎ分ける動画を見せて，次時への意欲へとつなげた。振り返りでは，自分たちで解決方法を見つけた感想を述べ，教師が個別に自己肯定感を高める評価をした。

## 児童の様子

**実生活とのつながり**

〇ビー玉を給食のから揚げ等に見立て，お玉で注ぎ分ける動作を動画で確認することで，本時に行う活動のイメージをもつ児童の姿が見られた。

**思考のつながり**

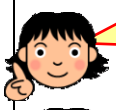
〇既習の考え方では解決できない場面を設定することで，新たな方法での問題解決に向けて，意欲的に自力解決をしていた。

ぼくのが少なく見えるよ。数えたら４個しかなかったよ。

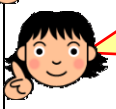
わたしは 14 個。B くんは４個で C さんは６個か。一人何個にすればいいのかなあ。

全部で何個あるか数えてみようよ。

〇総数を求める際に，４人の数をたし算すればよいことに気付かず，実際のビー玉を数えようとしたがうまく行かない児童の実態が見られた。しかし，卵パックを使うと，10 のかたまりが２つ，バラが８個で 28 個であると見つけ出すことができた。



28 個を４人でわけるのなら，わり算だ。28÷４で７個だ。



一人７個だとわかったら，お玉で７個ずつにして上手に分けられる。

**思考のつながり**

お玉に乗せたビー玉が花の形になったら７個だと先生が教えてくれた。やってみよう。

たくさんあるから数えるのが大変そう。でも面白そう。